

Ⅱ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組【大項目】

1 教育に関する目標を達成するための取組【中項目】

(1) 教育内容等に関する目標を達成するための取組

① 入学者受入れに関する目標を達成するための取組【小項目】

1	ア 各学部・研究科の入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）を、大学案内などの広報誌やホームページなどの各種広報媒体を通じて公表する。特に、県内の高等学校などには大学案内を送付し、入学希望者や進路指導担当者へ直接広報する。	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
		特別評価			顕著 新規	顕著		
2	イ 大学入試制度の状況や入学者選抜の評価、入学者の追跡調査結果等を踏まえ、適切な定員を設定し、入学試験における試験教科・科目の設定、募集人員の配分、推薦入学の選抜方法を適宜検証し、必要な改善を行う。	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
		特別評価			独自	独自		
3	ウ 優秀な学生・目的意識を持った学生を確保するため、高校とも連携しながら、説明会、出張講義、オープンキャンパス等を実施する。	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
		特別評価			新規 着実		着実	
4	エ 大学院に進学を希望する社会人を取り巻く環境に配慮し、社会人特別選抜や昼夜開講を行うとともに、3年以内に長期履修制度の導入を検討し、実施する。	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
		特別評価			新規		着実	

② 教育内容・方法に関する目標を達成するための取組【小項目】

5	＜学士課程教育＞ ア 教養教育と専門教育が一貫した教育体系のもとで教育効果を高められるようカリキュラムを編成する。そのための権限と責任を持った全学的な管理・運営体制を整備する。	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
		特別評価					課題	
6	イ 学年、学部（学科、専攻、コース）に応じたキャリアデザイン教育システムを構築し、実施する。	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
		特別評価			新規	新規	着実	
7	ウ 現実的課題や地域課題に関心を持ち、対応できる能力を高めるため、体験的、実践的な学習を推進する。具体的には、次のような教育と地域課題解決を結びつけた取組を行う。 （ア）「もやいすと」育成プログラムをカリキュラムに位置づけ、全学的に取り組み、地域との連携、協力を得ながら、学生が、地域の自然、歴史、文化、産業等について、専門の枠を越えて、様々な体験、調査活動等を通じて学び、自ら課題を認識・発見し、それらの解決方法を地域に提案する。 （イ）学部教育において、受託調査・受託研究事業等により、地域の課題を教材として取り上げ、それらの解決方法を提案するような授業を実施する。 （ウ）フィールドワークの実施方法、内容を充実する。	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
		特別評価						

8	エ 英語教育のカリキュラムについて、各学部の専門領域との連携を図りながら、英語の4技能（読む、聞く、書く、話す）をバランスよく身につけさせるための見直しを行う。また、授業等でのCALL (Computer Assisted Language Learning) の活用やTOEIC®等の単位化等を引き続き行うとともに、学生の能力・意欲に応じた履修が可能となるようカリキュラムを見直す。 文学部英語英米文学科においては、専門教育との連携を図りながら、英語コミュニケーション能力の一層のレベルアップを図り、卒業時までにはTOEIC® 800点以上を目指す。
---	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価					課題	

9	オ 英語以外の外国語教育については、異文化理解の促進や言語教育の多様性を確保しつつ、目的や必要性、学生のニーズを踏まえたものとなるよう、位置づけの明確化及び教育内容の見直しを行う。
---	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

10	カ 情報教育においては、次のような取組を行う。 (ア) 高校における情報教育との継続性を図り、コンピュータ利用スキル（タッチタイピング能力、文書作成能力、データ集計能力、情報検索・発信能力、プレゼンテーション能力）とともに、情報モラルを習得させるための情報処理基礎科目を全学共通の必修科目として設定する。 (イ) 各学部の専門領域との連携推進の観点でカリキュラムの点検・見直しを行う。 (ウ) 授業において情報機器を積極的に利用する。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

11	キ 双方向性の確保により授業内容を充実するため、少人数教育を行う。
----	-----------------------------------

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

12	ク 実践的・実務的科目については、理論と実務を融合させるため、実務家による講義を実施する。
----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

13	ケ 研究成果発表会や各種コンテスト等を通じて、ディベート、スピーチ、プレゼンテーションなど各学部の特性に合った総合的コミュニケーション能力育成のための取組を実施する。
----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

14	〔教養教育〕 コ 教養教育と専門教育の管理・運営体制を整備し、現行カリキュラムの見直しを行い、全学共通のカリキュラムを編成・実施する。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価			新規			

15	サ 全教員が教養科目の開講・運営に関与する。
----	------------------------

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価			着実			

16	シ 学生の基礎的な学習能力を高めるため、1年前期に導入基礎教育として実施しているプレミナールを充実する。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

17	ス 「新熊本学」等の地域関連科目の内容を充実するとともに、体系化して教養教育の領域として設定する。
----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

18	〔専門教育〕 セ 時代の変化や要請に的確に対応した教育を行う。また、教育課程について、総合性と専門性のバランスのとれた系統的なものとなるよう、授業科目の点検・評価を実施し見直しを行う。
----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

19	〔文学部〕 高度な人文的教養の涵養と、地域社会や国際社会に貢献する職業人として能力育成を目指し、社会や学生のニーズ等に対応しながら、学部のカリキュラム及び体制の見直しを2年以内に検討し、より充実した教育を実施する。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

20	〔環境共生学部〕 環境に関する諸問題を認識するとともに、環境共生に係る知識や関心を専門的に深化するためのカリキュラムを引き続き実施する。また、現場での体験、実地調査を重視し、実証的な教育を実施する。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価					着実	

21	〔総合管理学部〕 社会における諸問題の発見とその解決に向けた政策立案能力と、それを実践する実行力を持つ有為な人材を育成するために、幅広い視点を持ちつつも、深い専門性を持つことができるよう、第4セメスター以降において4つのコース（「パブリック・アドミニストレーション」「ビジネス・アドミニストレーション」「情報管理」「地域・福祉ネットワーク」の各コース）を設定する。併せて、学生が明確な目的意識を持ち、学習できるよう指導する。
----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価			着実			

22	ソ 学年、学部（学科、専攻、コース）に応じたキャリアデザイン教育システムを構築し、実施する。（再掲） タ インターンシップやキャリアガイダンスを充実する。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

23	〔文学部〕 専門性はもとより、より質の高い教員の養成を図るため、各学科の専門教育と学科を越えた学部共通カリキュラムについて検討し、実施する。
----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

24	〔環境共生学部〕 「環境共生学」を基礎とし、研究能力・問題解決能力が高く応用力のある人材を育成するための教育を実施する。学生が専門知識の習得と調査・分析技能をバランスよく習熟できるよう、各分野の専門教育と専門知識を基礎とする実験・演習科目、野外・実践臨地実習を展開し、関連する資格の取得を支援する。 管理栄養士国家試験については、合格率90%以上を目標として設定し、そのための支援を強化する。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価			顕著		課題	

25	〔総合管理学部〕 教員免許、システム・アドミニストレータをはじめとした卒業後役に立つ資格の取得に向けた支援を強化する。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

26	チ きめ細やかな教育を行うため、大学院生によるT A (Teaching Assistant) 制度を充実する。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価					新規	

27	ツ 効果的な授業の実施・補完、自己学習の支援等のため、e-ラーニングを導入する。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

28	テ 幅広い科目を提供するため、他大学と連携し単位互換制度の拡充を図る。
----	-------------------------------------

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

29	ト 高校や県教育委員会等との連携により高校教育と大学教育双方の充実改善に資する高大連携の取組を推進する。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価			新規 着実			

30	＜大学院教育＞ ナ 大学院教育の点検評価を行い、博士前期課程と博士後期課程の関連を考慮しつつ、各研究科の目的に応じた教育課程の改善を行う。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価			着実	新規 着実	着実	

31	ニ 社会人学生に関する教育状況を踏まえ、社会人のニーズに応える履修モデルやプログラムを3年以内に検討、実施する。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価			新規			

32	ヌ 学生に教育トレーニングの機会を提供するとともに、大学院教育と学部教育との連携を図るため、T A制度の現状を点検し、運用の改善を行う。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価					新規	

33	ネ 学生の研究遂行能力を育成するため、R A (Research Assistant) 制度の導入を3年以内に検討、実施する。
----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

34	[文学研究科] 言語・文学・文化に関する教育研究を充実するため、博士課程の設置を目指し、今後の社会ニーズや文学研究科の今日的意義、学部教育の見直しも踏まえて、教育研究の目標、体制及びカリキュラムを見直す。
----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価					顕著	

35	[環境共生学研究科] (ア) 多様化する環境問題に対処し、自然環境と人間活動の共生を具体的に実現する資源循環型社会の構築を目指して、環境共生の基本理念のもとに、専門性を追求し、地域社会のニーズに対応した環境共生に関する教育研究を行う。 (イ) 自ら研究課題を立案・計画し、成果を論文としてまとめる能力を育成するための指導を行う。そのため、高度な分析技術を修得できるよう指導する。 (ウ) 学生が研究成果を広く海外にも発信できるよう、英語によるプレゼンテーションや論文を作成する能力を育成する。
----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

36	[アドミニストレーション研究科] (博士前期課程) 公共経営・企業経営・情報管理・看護管理の 4コース制を導入することにより、多方面から アドミニストレーションの基本概念の修得を 目指し、地域社会の要請に応える問題発見・解決 型の教育研究を実践する。 (博士後期課程) 社会の様々な分野で生じる諸課題を高度な知 識と判断力によって多角的・総合的に解決す るための研究教育を実施するとともに、アドミ ニストレーションの理論をより一層深化、発展さ せることによって課題解決の適切さと確実度を 高める教育研究を実践する。 また、博士前期課程のコース制導入を踏ま え、博士後期課程についての見直し検討を2年 以内に行う。

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別 評価						

③ 教育の質の向上に関する目標を達成するための取組【小項目】

37	ア 大学全体として取り組むべきFD (Faculty Development) 研修と各学部で実施するFD研修とを体系化して実施・充実する。

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別 評価			着実	着実		

38	イ 全授業を対象に実施している学生による授業評価アンケートについて、アンケート結果を授業の改善に用いるとともに、アンケート結果を公表する。また、アンケートの内容や実施方法について検証し、改善する。

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別 評価			着実	着実		

39	ウ 教員の個人評価の結果を教員にフィードバックし、教育改善につなげる。また、評価内容、実施方法について検証し、改善を図る。

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別 評価						

(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための取組【小項目】

40	① 社会の要請等に適切に対応した教育を行うため、学部・学科の再編、見直しを行う。

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別 評価					顕著 独自	

41	② 教養教育と専門教育が一貫した教育体系のもとで教育効果を高められるようカリキュラムを編成する。そのための権限と責任を持った全学的な管理・運営体制を整備する。(再掲)

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別 評価						

42	③ カリキュラム編成に基づいた教員人事(採用)計画を作成し、退任教員の後任採用はその計画に基づいて行う。

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別 評価						

43	④ カリキュラムの見直しに際しては、できる限り専任教員による授業対応を目指す。

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別 評価						

44	⑤ 限られた人数の教員による教育研究の限界性を補完し、広範な教育研究活動を展開するため、客員教授あるいは特任教授等の制度を導入する。

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別 評価						

45	⑥ 教育活動への支援を充実させるため、職員を適正に配置するとともに、職員の専門性を高めるため、SD (Staff Development) 研修を行う。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

46	⑦ 学生が学習目標を設定できるように科目体系を明らかにし、養成すべき人材を育成する履修モデルを示すとともに、シラバス等により各授業科目の位置づけを明確にする。
----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価					課題	

47	⑧ シラバスをデータベース化し、学内、学外からのニーズに対応するシステムを構築する。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価			新規			

48	⑨ GPA (Grade Point Average) 制度により、成績優秀者に対しては、表彰や特典を与え、成績不振者に対しては、履修指導を実施する等、学生の自主的・意欲的な学習を喚起する。
----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価			着実			

49	⑩ 休・退学、留年者等の実態を調査し、各学部において組織的な対応策を講じる。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

50	⑪ 学部・学科間の横断的履修を可能とするために、学部・学科相互間の履修を原則自由とし、単位認定を行う。
----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

51	⑫ 一定の成績条件を満たしている学生については、原則として転学部、転学科、転専攻を認める。
----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

52	⑬ 成績優秀者に対して早期卒業制度の導入を3年以内に検討する。
----	---------------------------------

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

53	⑭ 個々の学生を在学期間を通じて担当教員がサポート・アドバイスする体制を充実する。
----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価					着実	

54	⑮ 学習や将来の進路等、学生の様々な悩みに対応するためのオフィスアワー制度を引き続き実施する。
----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

55	⑯ 学術情報メディアセンター図書部門の文献の充実を図るとともに、データベースの共同利用等によるネットワーク機能の充実を3年以内に検討、実施する。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

56	⑰ 利用者のニーズに対応して、学術情報メディアセンター図書部門の開館時間延長や日曜開館、外国語教育部門の夜間・休日開館を実施する。
----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価			新規			

57	⑱ 講義室や実験室等を計画的に整備し、充実を図る。
----	---------------------------

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価				顕著	着実	

2 研究に関する目標を達成するための取組【中項目】

(1) 目指すべき研究の方向及び水準に関する目標を達成するための取組【小項目】

58	① 学長特別交付金制度の活用等、学長のリーダーシップに基づき、学際的な研究や教育内容・教育方法の開発のための研究等を支援する。
----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

59	② 地域活性化や環境問題、地域文化の継承・創造などの地域のニーズに積極的に対応する研究活動を地域貢献研究事業や受託研究制度も活用しながら行う。
----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価					独自	

60	[文学部] 熊本方言の研究、熊本に残る歴史的資料の調査研究、文学作品と熊本の関わりなどについて、多角的な観点から地域文化研究の深化を図る。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価			注目 着実			

61	[環境共生学部] 重点研究領域として、「地域の環境保全とその適切な利用」を設定する。
----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

62	[総合管理学部] 重点研究領域として、人口減少社会における地域経営、市町村合併、コミュニティビジネスなどの地域の発展に貢献する研究領域を設定する。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

63	③ 地域貢献研究事業や受託研究制度の活用により、県や市町村の行政課題解決に資する研究を推進する。また、教員が地域課題に対応した研究テーマを主体的に提案する地域貢献研究を充実させる。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

64	④ 科学研究費補助金等の外部研究資金について、全教員の申請を目標とする。
----	--------------------------------------

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価			課題	着実	課題	

65	⑤ 国内外への大学・研究機関との交流を推進し、共同研究や研修等を通じて研究水準を向上させる。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

66	⑥ 学術雑誌に公表する研究論文や著書などの発表に努めることとし、学問領域の特性に応じて次のとおり目標を設定する。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

67	[文学部] 各教員において、5年間に論文2編相当以上の発表を目標とする。
----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

68	[環境共生学部] 各教員において、5年間に、査読付き論文あるいは著書、特許もしくはそれに準じるものを5編以上発表または取得することを目標とする。
----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価					注目	

69	[総合管理学部] 各教員において、5年間に3編以上の論文等の発表を目標とする。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

70	⑦ 学部、学科、専攻別にまとめて、毎年の発表論文及び学会発表に関する情報をホームページ等で公開する。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価			顕著	着実		

71	⑧ 研究活動・業績について、個人評価制度等による点検・評価を行い、改善に努めるとともに、研究活動を活性化するためのシステムを整備する。 ア 教員研究費については、経費執行の実態や個人評価の結果を踏まえ、適正配分及び有効に利用するためのシステムを整備する。 イ 教員の研修の充実を図るため、研修成果発表の機会設定等により、海外・国内研修（留学）について、研修条件、派遣人数、期間等のあり方を見直す。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための取組【小項目】

72	① 学長特別交付金制度を活用し、学長のリーダーシップに基づき、特徴ある研究に予算を重点配分する。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

73	② 学術情報メディアセンター図書部門の文献の充実を図るとともに、データベースの共同利用等によるネットワーク機能の充実を3年以内に検討、実施する。(再掲)
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

74	③ 各種研究助成金等の公募情報の収集・提供及び申請事務等について支援体制を充実する。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

75	④ 知的財産の取得、管理を機能的に行うための体制を整備する。
----	--------------------------------

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

76	⑤ 研究の質の向上を図るための環境を整備するため、設備更新計画を作成し、順次更新する。
----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価					着実	

77	⑥ 出版助成制度導入について3年以内に検討、実施する。
----	-----------------------------

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

78	⑦ 地域貢献の総合窓口である「地域連携センター」において、研究員の受け入れや地域課題の研究や試験研究機関・地域企業との共同研究を推進する。 ア 「環境共生学部研究支援室(アクセス、ACCESS)」の活用により、他大学、研究機関、地方公共団体、民間企業・団体等の外部機関との研究協力を推進する。 イ 健康科学、食育、食・環境分析、食のリスクコミュニケーション、バイオテクノロジー等の立場から食・環境科学を志向した研究情報機能充実のため、「地域連携センター」に食環境研究情報室を設置する。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価			顕著		新規	

3 地域貢献に関する目標を達成するための取組【中項目】

79	(1) 県政や市町村行政を支援するため、県や市町村からの依頼研究や受託研究、自治体の政策形成過程への参加、研修講師の派遣を積極的に行う。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価			新規	着実	独自	

80	[環境共生学部] 「環境立県くまもと」や食の安全安心、食育等の推進のため、県の関係部局及び試験研究機関並びに企業等とも積極的に連携する。
----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価				着実		

81	[総合管理学部] 県内企業や団体職員の研修プログラムを開発する。
----	-------------------------------------

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価					着実	

82	(2) 地域貢献研究事業や受託研究制度の活用により、県や市町村の行政課題解決に資する研究を推進する。 また、教員が地域課題に対応した研究テーマを主体的に提案する地域貢献研究を充実させる。(再掲)
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

83	(3) 県と本学の定期的な協議、意見交換の場を設置する。
----	------------------------------

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

84	(4) 様々な地域課題について試験研究機関・地域企業等との共同研究を推進する。
----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価			新規		新規	

85	[文学部] 県、市町村の教育委員会や、文化関係の団体・施設と連携し、地域文化についての共同の研究や調査を推進するとともに、研究の成果を集積し、地域及び学外機関に発信する。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

86	[環境共生学部] 「環境立県くまもと」や食の安全安心、食育等の推進のため、県の関係部局及び試験研究機関並びに企業等とも積極的に連携する。(再掲)
----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

87	<p>[総合管理学部] よりよい地域社会の実現に向けて、NPOや福祉・ボランティアグループ等との連携をより強化しながら、地域の抱える諸課題の解決に協力して取り組む。</p>

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

88	<p>(5) 広報媒体を活用し、学内の研究者・研究情報など産学連携に結びつく本学の資源を積極的に情報発信する。</p>

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

89	<p>(6) 本学の各種の公開講座により、各教員が積極的に研究成果の地域への還元を行う。また、各学部において、「研究成果報告会」を開催することにより、教員の研究成果を地域に還元する。</p>

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価				着実	着実	

90	<p>(7) 研究成果の産業界への移転を促進するため、熊本TLO(Technology Licensing Organization)を活用する。</p>

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

91	<p>(8) 小・中・高等学校等に対し、講演会・研修会の講師や委員会委員の派遣、出張講義等を行う。県教育委員会や文部科学省の研究指定校等との連携により高校教育と大学教育双方の充実改善に資する高大連携の取組を推進する。</p>

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価				新規		

92	<p>(9) 熊本県内大学・高専によるコンソーシアムに積極的に参画する。</p>

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

93	<p>(10) 地域の生涯学習ニーズ等に対応するため、本学が行う公開講座について、各教員が積極的に関与する。 ① 大学の正規の授業を県民に公開する「授業公開講座」については、教員1人あたり1科目開講を目標として公開に取り組み、県民に生涯学習の機会を提供する。 ② 県民の生涯学習ニーズにさらに対応していくため、大学の教育・研究資源や県民のニーズを踏まえながら、県民や市町村職員を対象として行う「特別出前講座」等の各種講座を開設する。</p>

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価			着実	新規		

94	<p>(11) 県や他大学と連携して実施している「くまもと県民カレッジ」等の生涯学習講座に、本学の教育・研究資源を生かし、積極的に参画する。また、地域の様々な団体が主催する講演会等に、積極的に講師派遣を行う。</p>

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

95	<p>(12) 県民の生涯学習の場として大学施設の活用を推進する。</p>

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価				新規		

96	<p>(13) 地域での講演会、シンポジウム、イベント等の会場として、大学の施設開放を実施する。</p>

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

97	(14) 地域の課題を教材とする受託調査・受託研究事業等を積極的に活用し、地域の課題を教材とすることで、それらの解決法を提案・支援するとともに、学生の受託調査等への積極的な参加を推進する。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

98	(15) 「もやいすと」育成プログラムにより、学生の地域調査活動等を通して地域の課題解決支援を行う。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価			独自			

99	(16) 大学全体としてさらに地域貢献に取り組むため、地域貢献の総合窓口である「地域連携センター」にコーディネーターや職員を配置し、積極的な県民ニーズへの対応や研究成果の還元等を行う。
----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

4 国際交流に関する目標を達成するための取組【中項目】

100	(1) 長期の国際交流ビジョンを策定し、具体策を推進する。
-----	-------------------------------

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価			新規	着実		

101	(2) 協定校への留学や短期研修を推進するとともに、交流内容を改善、充実する。
-----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価				着実		

102	(3) 恒常的に交流が可能な新たな大学の発掘を進める。
-----	-----------------------------

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価			新規		着実	

103	(4) 協定校以外への海外留学や語学研修、海外でのインターンシップやボランティアへの参加等を希望する学生に対して必要な情報提供、助言等を行う。
-----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

104	(5) 後援会と連携し、ゼミや研究室等による海外大学との交流事業や海外での調査研究事業を奨励・支援する。
-----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

105	(6) 十分な日本語能力と高い修学・交流意欲を持った留学生の受け入れを推進する。
-----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

106	(7) 日常的な国際交流を促進するため、留学生との交流スペースを確保する。
-----	---------------------------------------

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

107	(8) 大学院生の国際会議・学会等での研究発表及び参加を奨励・支援する。
-----	--------------------------------------

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

108	(9) 教職員の海外留学・海外出張・研修等の実施や、海外からの研究者や研修者の受け入れを積極的に行うため、支援体制を充実する。
-----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価					着実	

109	(10) 留学生への支援、学生や教職員の国際交流を推進するため、学術情報メディアセンターの有効活用や職員の適正配置等により、組織体制を見直す。
-----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

5 学生生活支援に関する目標を達成するための取組【中項目】

110	(1) ホームページや広報誌等を活用し、大学運営についての情報を学生に的確に伝える。
-----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

111	(2) 学生の意見を収集する機会を増やす。 ① 学生の意見を収集するため、学生と学長の懇談会や留学生オリエンテーションを開催するほか、学長への提言広場の活用を促進する。 ② 学生の現況、要望を的確に把握するため、学生自治会と連携して教育・学生生活全般にわたるアンケート調査を実施する。
-----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

112	(3) 学生との連携により学習環境の改善、大学生生活の充実を図る。 ① カリキュラム、授業内容、就職支援事業等の充実・改善等及び学習環境の維持・改善等に学生要望を反映させる。 ② 大学内の生活環境改善、安全性確保に学生要望を反映させる。
-----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価					着実	

113	(4) 授業料減免、各種奨学金等の経済的支援制度についての的確に情報提供する。
-----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価			新規			

114	(5) 新たな奨学資金の獲得に努め、経済的な支援体制を整備する。
-----	----------------------------------

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価			新規	独自	新規	

115	(6) 授業料、入学金について、減免制度の見直しを行う。
-----	------------------------------

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価			新規	独自		

116	(7) 学生が相談し易いように人的体制及び施設面で必要な整備を進める。 ① 専任カウンセラー及び精神科医(非常勤)の配置又は保健師の常勤化等により人的体制を充実する。 ② 気軽に訪問できる場所に保健室、学生相談室を配置する。
-----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価					課題	

117	(8) 障害・疾病のある学生に対し、ソフト・ハード両面での支援のための取組を推進する。
-----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

118	(9) 留学生の学習意欲を高めるために、相談窓口、日本語及びその他の研修プログラムの充実によるサポート体制を整備する。
-----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

119	(10) セクシュアル・ハラスメントの実態を把握するための調査を毎年実施し、調査結果を啓発及び防止対策へ反映させる。
-----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

120	(11) 学内での人権侵害全般の防止体制を整備する。
-----	----------------------------

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

121	(12) 各学部の就職支援体制を充実し、学部、学科、専攻、ゼミ単位での就職支援事業を推進する。
-----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価			着実			

122	(13) 就職センターの機能充実を図り、就職情報収集力を強化するとともに、学生へホームページ等から就職情報を提供する。
-----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価			着実	新規	着実	

123	(14) 本学後援会、紫苑会（同窓会）等との連携により就職支援を充実する。
-----	---------------------------------------

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

124	(15) 本学後援会との連携により、語学力向上、資格取得等のための講座及び助成制度について、社会ニーズを踏まえ、常に有効な支援制度となるよう整備する。
-----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

125	(16) 学生のボランティア活動への主体的な参加を支援する。 ① ボランティア活動に必要な実践的知識を習得できる研修会を開催する。 ② ボランティアサークルとの連携などにより、ボランティア活動に関する学生への情報提供や啓発を行う窓口を設置する。
-----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

126	(17) 本学後援会との連携により、サークル活動や学生の自主的な活動活性化のため、環境整備を行う。
-----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別評価						

Ⅲ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組【大項目】

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
委員会評価	2	2	1	1	1	

1 運営体制の改善に関する目標を達成するための取組【中項目】

(1) 組織体制の整備【小項目】

127	① 理事長を中心とした法人経営の実施、学長を中心とした教育研究活動の充実を図るため、理事長と学長の権限と責任を明確化するとともに、これを補佐する体制を整備する。 理事長の補佐体制として、理事に学外者を登用するとともに、理事会を置く。 学長の補佐体制として、主に教務及び学生支援を事務局と協働し担当する副学長を置く。	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	A	B	C	D
		自己評価	A	A	A	A	(A)		5	0	0	0
		委員会評価	A	A	A	A	(A)		5	0	0	0
		特別評価										
128	② 学部長や附属機関の長については、その権限と責任を明確化し、中期目標や中期計画をはじめとした全学的な方針に基づいた運営を図るため、学部や附属機関の運営に関する責任者として位置づける。	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	A	B	C	D
		自己評価	A	A	A	A	(A)		5	0	0	0
		委員会評価	A	A	A	A	(A)		5	0	0	0
		特別評価										
129	③ 学内における合意の形成及び円滑な実施を図るため、理事長を議長とした運営調整会議を設置する。併せて委員会中心の学内の意思形成を図るため、各委員会の再編統合を行う。	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	A	B	C	D
		自己評価	A	A	A	A	(A)		5	0	0	0
		委員会評価	A	A	A	A	(A)		5	0	0	0
		特別評価										
130	④ 運営調整会議については、理事長と学長のリーダーシップに基づく執行の確保と学内での意思形成との両立及び調和を図るため、委員会、学部教授会及びプロジェクトチームとの企画及び執行調整体制を確立する。	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	A	B	C	D
		自己評価	B	A	A	A	A		4	1	0	0
		委員会評価	B	A	A	A	A		4	1	0	0
		特別評価										
131	⑤ 教授会や研究科委員会については、その審議事項を各学部や研究科の教育研究に関する重要事項に精選する。	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	A	B	C	D
		自己評価	A	A	A	A	(A)		5	0	0	0
		委員会評価	A	A	A	A	(A)		5	0	0	0
		特別評価										
132	⑥ 事務局については、教員と事務局職員との協力連携による一体的運営を図るため、体制を強化する。	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	A	B	C	D
		自己評価	A	A	A	A	(A)		5	0	0	0
		委員会評価	A	A	A	A	(A)		5	0	0	0
		特別評価										
133	⑦ 適正で効率的な大学運営を行うため、会計処理におけるチェック体制の整備など内部監査体制について検討するとともに、監事による業務監査及び会計監査を適切に実施し、業務に反映させる体制を整備する。	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	A	B	C	D
		自己評価	B	A	A	A	(A)		4	1	0	0
		委員会評価	B	A	A	A	(A)		4	1	0	0
		特別評価										

(2) 意思決定過程及び実施過程の整備 【小項目】

134	経営に関する事項と教育研究に関する事項について、調整の効率化を図るため、それぞれのプロセスを整備し明確化するとともに、運営調整会議を中心に全体の調整を行う。
-----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	A	A	A	A	(A)	
委員会評価	A	A	A	A	(A)	
特別評価						

A	B	C	D
5	0	0	0
5	0	0	0

(3) 学内の人材や情報の有効活用と学外者の積極的参画 【小項目】

135	バランスのとれた組織運営を行うため、学内の人材や情報を掘り起こし、その有効活用を図るとともに、学外理事や各審議機関の学外委員との十分な情報の共有化を図りつつ、これらを通して学外からの情報を広く取り入れる。
-----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	A	A	A	A	A	
委員会評価	A	A	A	A	A	
特別評価					着実	

A	B	C	D
5	0	0	0
5	0	0	0

(4) 大学運営への学生意見の反映 【小項目】

136	大学の運営に関し、学生への情報の開示に努めるとともに、学生の意見を反映させるための仕組みを検討する。
-----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	B	B	A	A	(A)	
委員会評価	B	B	A	A	(A)	
特別評価			新規			

A	B	C	D
3	2	0	0
3	2	0	0

2 教育組織の見直しに関する目標を達成するための取組 【中項目】

(1) 学部・学科等の再編 【小項目】

137 ~ 139	教育研究の進展や時代の変化、学生や地域など社会の要請等に適切に対応した教育を行うための検討を不断に行い、必要に応じて学部・学科等の再編、見直しを行う。
-----------------	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	A	A	A	B	A	
委員会評価	A	A	A	B	A	
特別評価						

A	B	C	D
4	1	0	0
4	1	0	0

(2) 地域連携センターの設置 【小項目】

140	地域や産業界との連携による研究活動の促進を図り、積極的な県民ニーズへの対応や研究成果の還元を図るため、地域貢献の総合窓口として「地域連携センター」を設置し、コーディネーターや職員を配置する。
-----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	A	A	A	A	A	
委員会評価	A	A	A	A	A	
特別評価						

A	B	C	D
5	0	0	0
5	0	0	0

(3) 学術情報メディアセンターの設置 【小項目】

141	附属図書館、外国語教育センター及び中央コンピュータ室を「学術情報メディアセンター」に統合し、IT化の推進による業務の効率化を図りながら、学内はもとより地域をも視野にいれた学術情報サービスの提供について検討し、実施する。
-----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	A	B	A	A	A	
委員会評価	A	B	A	A	A	
特別評価			新規			

A	B	C	D
4	1	0	0
4	1	0	0

3 人事の適正化に関する目標を達成するための取組 【中項目】

142	(1) 教員の職務の特殊性を踏まえ、創造性や専門性がより発揮できるよう裁量労働制の導入を検討する。
-----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	A	B	A	A	(A)	
委員会評価	A	B	A	A	(A)	
特別評価						

A	B	C	D
4	1	0	0
4	1	0	0

143	(2) 地域貢献、産学連携等を一層促進するため、兼業・兼職制限の基準の緩和を図る。	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	A	B	C	D
		自己評価	A	A	A	A	(A)		5	0	0	0
		委員会評価	A	A	A	A	(A)		5	0	0	0
		特別評価										
144	(3) 教職員個人の業績をより適正に評価する制度を検討するとともに、その評価結果を、社会一般の情勢を考慮し、教職員の給与や処遇に反映させる仕組みを検討する。	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	A	B	C	D
		自己評価	C	C	B	A	B		1	2	2	0
		委員会評価	C	C	B	A	B		1	2	2	0
		特別評価			課題	着実						
145	(4) 教員の採用は、公平性・透明性を確保するため、原則として公募制とする。	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	A	B	C	D
		自己評価	A	A	A	A	(A)		5	0	0	0
		委員会評価	A	A	A	A	(A)		5	0	0	0
		特別評価										
146	(5) 多様な知識又は経験を有する教員の交流を進め、教育研究を活性化させるため、全教員を対象として任期制の導入を検討する。	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	A	B	C	D
		自己評価	A	A	A	A	B		4	1	0	0
		委員会評価	A	A	A	B	B		3	2	0	0
		特別評価					着実					
147	(6) 事務組織機能を充実させるため、学内外での研修等の実施・活用により大学特有の業務に精通した専門性の高い事務職員を養成するとともに、法人独自の事務職員の採用についても検討する。	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	A	B	C	D
		自己評価	B	B	A	B	A		2	3	0	0
		委員会評価	B	B	A	B	A		2	3	0	0
		特別評価			着実		新規					
148	(7) 質の高い教育研究機能を保ちつつも定数管理を適切に行い、効率的・効果的な人的資源の配分を推進する。	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	A	B	C	D
		自己評価	A	A	A	A	A		5	0	0	0
		委員会評価	A	A	A	A	A		5	0	0	0
		特別評価										

4 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための取組【中項目】

(1) 事務の簡素化・合理化の推進【小項目】

149	① 事務事業の点検を行い、事務事業の見直しを進める。	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	A	B	C	D
		自己評価	A	A	A	A	A		5	0	0	0
		委員会評価	A	A	A	A	A		5	0	0	0
		特別評価										
150	② 人的資源を有効に活用するため、事務事業の外部委託の可能性を検討し、可能なものから推進する。	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	A	B	C	D
		自己評価	A	A	A	A	(A)		5	0	0	0
		委員会評価	A	A	A	A	(A)		5	0	0	0
		特別評価										

151	③ 大学の情報管理体制のあり方を検討するとともに、情報の有効活用を図る。
-----	--------------------------------------

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	A	B	A	B	A	
委員会評価	A	B	A	B	A	
特別評価						

A	B	C	D
3	2	0	0
3	2	0	0

(2) 効率的な事務処理の推進 【小項目】

152	各種事務事業に係る業務マニュアルの作成や情報の共有化などにより、各組織の役割を明確化し、連携強化により、円滑な事務処理を図る。
-----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	A	A	A	A	A	
委員会評価	A	A	A	A	A	
特別評価						

A	B	C	D
5	0	0	0
5	0	0	0

IV 財務内容の改善に関する目標を達成するための取組【大項目】

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
委員会評価	1	1	1	2	2	

1 自己収入の増加に関する目標を達成するための取組【中項目】

153	(1) 授業料等学生納付金については、教育内容や環境の整備状況、他大学の動向、社会状況の変化等を総合的に勘案しながら設定する。
-----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	B	B	A	A	B	
委員会評価	B	B	A	A	B	
特別評価						

A	B	C	D
2	3	0	0
2	3	0	0

154	(2) 授業公開講座受講料、施設使用料等多様な収入源の確保に努める。
-----	------------------------------------

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	A	B	A	A	A	
委員会評価	A	B	A	A	A	
特別評価			新規	独自	着実	

A	B	C	D
4	1	0	0
4	1	0	0

155	(3) 科学研究費補助金等の競争的資金や受託研究、共同研究、教育研究奨励寄付金について、全教員の申請、受託等を目標とし、採択件数及び獲得額の増加を図る。
-----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	B	B	B	B	C	
委員会評価	B	B	B	C	C	
特別評価			課題	着実	課題	

A	B	C	D
0	4	1	0
0	3	2	0

156	(4) 各種研究助成金等の公募情報の収集・提供及び申請事務等について支援体制の充実を図る。(再掲)
-----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	B	B	A	A	A	
委員会評価	B	B	A	A	A	
特別評価			着実			

A	B	C	D
3	2	0	0
3	2	0	0

2 経費の抑制に関する目標を達成するための取組【中項目】

157	(1) 経費の効率的、効果的活用を図るため、教職員等に対し、コスト意識の涵養に取り組む。
-----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	B	B	A	A	A	
委員会評価	B	B	A	A	A	
特別評価			着実	着実		

A	B	C	D
3	2	0	0
3	2	0	0

158	(2) 経費全般についての点検を行い、その結果を全学的にフィードバックし、業務運営の改善に活用する。
-----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	B	B	A	A	(A)	
委員会評価	B	B	A	A	(A)	
特別評価						

A	B	C	D
3	2	0	0
3	2	0	0

159	(3) 事務処理の迅速化、効率化を図り、経費の抑制に努めるため、金融機関とのオンラインシステムの構築、契約方法の見直しを行う。
-----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	A	A	A	A	(A)	
委員会評価	A	A	A	A	(A)	
特別評価			着実			

A	B	C	D
5	0	0	0
5	0	0	0

160	(4) 定型業務については、費用対効果を考慮しながら外部委託を検討する。
-----	--------------------------------------

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	B	A	A	A	(A)	
委員会評価	B	A	A	A	(A)	
特別評価						

A	B	C	D
4	1	0	0
4	1	0	0

3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための取組【中項目】

161	(1) 資金管理については、安全性及び流動性の観点から常に分析調査を行いながら効率的な運用に努める。
-----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	B	B	A	A	(A)	
委員会評価	B	B	A	A	(A)	
特別評価						

A	B	C	D
3	2	0	0
3	2	0	0

162	(2) 土地・建物等の資産については、適切な維持・管理を行い、常に、最も有効な利用状態になるよう努める。
-----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	B	A	A	A	(A)	
委員会評価	B	A	A	A	(A)	
特別評価				顕著		

A	B	C	D
4	1	0	0
4	1	0	0

163	(3) 教育研究活動を妨げない範囲内で、利用者に応分の負担を求めつつ、学外へ施設の貸し出しを行う。
-----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	A	A	A	A	(A)	
委員会評価	A	A	A	B	(A)	
特別評価						

A	B	C	D
5	0	0	0
5	0	0	0

V 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価に関する目標を達成するための取組【大項目】

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
委員会評価	1	1	1	1	1	

164	1 教育、研究、地域貢献及び組織、運営に関して、自己点検及び評価を継続して実施する。
-----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	B	B	A	A	A	
委員会評価	B	B	A	A	A	
特別評価					新規 着実	

A	B	C	D
3	2	0	0
3	2	0	0

165	2 自己点検及び評価のためのシステム並びに評価実施体制の定期的な改善及び見直しを行う。
-----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	A	A	A	A	A	
委員会評価	A	A	A	A	A	
特別評価						

A	B	C	D
5	0	0	0
5	0	0	0

166	3 自己点検及び評価にあたって、学外者の意見を反映させるシステムを導入する。
-----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	A	A	A	A	A	
委員会評価	A	A	A	A	A	
特別評価						

A	B	C	D
5	0	0	0
5	0	0	0

167	4 自己評価及び外部評価の結果を基に、教育、研究、地域貢献及び組織、運営についての年次改善計画を作成し、段階的な改善を行うとともに、次期中期計画に反映させる。
-----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	A	A	A	A	A	
委員会評価	A	A	A	A	A	
特別評価				着実	新規	

A	B	C	D
5	0	0	0
5	0	0	0

VI 教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための取組【大項目】

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
委員会評価	1	1	1	1	1	

168	1 大学の基本理念、財務状況、中期目標・中期計画、自己点検及び評価の結果等の情報を、広報誌、ホームページ等複数の媒体を利用して公表する。
-----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	A	A	A	B	A	
委員会評価	A	A	A	B	A	
特別評価			新規 着実		着実	

A	B	C	D
4	1	0	0
4	1	0	0

169	2 シラバス及び教育研究活動の成果をデータベース化し、学内、学外からのニーズに対応できるシステムを構築する。
-----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	A	A	A	A	A	
委員会評価	A	A	A	A	A	
特別評価			顕著 新規			

A	B	C	D
5	0	0	0
5	0	0	0

170	3 広報活動を一元的かつ効率的に行う体制を整備する。
-----	----------------------------

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	B	B	A	B	A	
委員会評価	B	B	A	B	A	
特別評価						

A	B	C	D
2	3	0	0
2	3	0	0

VII その他業務運営に関する重要目標【大項目】

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
委員会評価	1	1	1	1	1	

1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための取組【中項目】

171	(1) 施設設備の現状を点検調査し、その結果に基づき、既存施設設備の更新、維持・管理や大規模改修、あるいは寄附金等の活用による新規施設の建設や、高額機器類の購入について、中・長期的視点に立ち、計画的に実施する。
-----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	A	A	A	A	A	
委員会評価	A	A	A	A	A	
特別評価				顕著	着実	

A	B	C	D
5	0	0	0
5	0	0	0

172	(2) 教育・研究を行うための良好な施設設備環境を提供することを念頭に、ユニバーサルデザイン、環境に配慮した施設設備の整備を行う。
-----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	B	B	A	A	A	
委員会評価	B	B	A	A	A	
特別評価				顕著	着実	

A	B	C	D
3	2	0	0
3	2	0	0

173	(3) 施設設備の利用状況を定期的に点検し、有効活用のための施策を検討する。
-----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	B	B	A	A	A	
委員会評価	B	B	A	A	A	
特別評価						

A	B	C	D
3	2	0	0
3	2	0	0

2 安全管理に関する目標を達成するための取組【中項目】

174	(1) 安全・衛生管理を総合的に行う体制を整備する。
-----	----------------------------

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	A	A	A	A	(A)	
委員会評価	A	A	A	A	(A)	
特別評価						

A	B	C	D
5	0	0	0
5	0	0	0

175	(2) 安全・衛生管理に対する教職員及び学生の意識向上を図り、事故を防止するため、定期的に研修を実施する。
-----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	A	A	A	A	A	
委員会評価	A	A	A	A	B	
特別評価					課題	

A	B	C	D
5	0	0	0
4	1	0	0

176	(3) 有害・危険物薬品等の危険物取り扱いについては、取り扱いや管理状況、マニュアルを再点検し、安全管理に努める。
-----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	A	A	A	A	(A)	
委員会評価	A	A	A	A	(A)	
特別評価						

A	B	C	D
5	0	0	0
5	0	0	0

177	(4) 大学で取り扱う個人情報について、個人情報保護法等を踏まえ、情報セキュリティ対策を講じる。
-----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	A	A	A	B	A	
委員会評価	A	A	A	B	A	
特別評価						

A	B	C	D
5	0	0	0
5	0	0	0

3 人権に関する目標を達成するための取組【中項目】

178	(1) セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント等の人権侵害を防止するため、相談、啓発、問題解決などに全学的に取り組む体制を整備する。
-----	--

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	A	A	A	A	(A)	
委員会評価	A	A	A	A	(A)	
特別評価						

A	B	C	D
5	0	0	0
5	0	0	0

179	(2) 教職員及び学生の意識向上を図るため、定期的に人権に関する研修や啓発活動などを実施する。
-----	---

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
自己評価	A	A	A	A	(A)	
委員会評価	A	A	A	A	(A)	
特別評価						

A	B	C	D
5	0	0	0
5	0	0	0